

<資料>

=信濃毎日新聞データベースから=

「松本城を 世界遺産 に」 実行委が総会
2011(平成23)年7月14日(木) 朝刊21ページ 中信1面 6版 発信元: 自社 文字数: 170 記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

松本市や信濃毎日新聞社など54団体でつくる「国宝松本城を**世界遺産**に」推進実行委員会(会長・菅谷昭市長)は13日、同市内で総会を開き、本年度事業や予算を承認した。昨年度に続き、既に登録済みの姫路城を含む国宝4城による近世城郭群としての**世界遺産**登録を目指し、滋賀県彦根市、愛知県犬山市と共同研究を進める。

長和町が姉妹都市検討 岩石採掘跡残る英ノリッジ市と 世界遺産 登録や国際交流に
2011(平成23)年9月9日(金) 朝刊23ページ 東信1面 6版 発信元: 自社 市町村: 長和町 文字数: 451 記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 社会・世相

長和町は、英国・ノリッジ市との国際姉妹都市提携を目指す方針だ。同市には日本の美術や文化、考古学を研究している「セインズベリー日本芸術研究所」があることから、同町は町内や諏訪地域の黒曜石が産出する縄文遺跡群の**世界遺産**登録に向けて学术交流を進めたい考え。ホームステイなどを通じた小中学生の国際交流も目的とする。

同市は英国南東部に位置するノーフォーク州の州都。町や町教委によると、フリントと呼ばれる岩石の採掘跡があるほか、古い町並みを残しているという。「黒曜石を産出し、宿場町の風景が残る長和町と似ている」と町教委。

長和町には国内外とも姉妹都市がない。近隣市町村は国際姉妹都市提携を利用して中学生を海外に派遣するといった交流事業をしており、同町も子どもたちに国際経験を持ってもらいたい考えだ。

町は近くノリッジ市側に提携の意向を伝え、具体的な話し合いを始めたい考え。1、2年以内をめどに姉妹都市提携を目指す。羽田健一郎町長は「できるだけ早く提携し、世界遺産登録と子どもたちの国際交流を実現したい」と話している。

次代に残す宝(4)＝松本城 青木教司さん 「民の力」が支えた歴史
2011(平成23)年10月4日(火) 朝刊22ページ 広域1面 6版
発信元: 自社 文字数: 1572
記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能 種別: 連載

[青木 教司(あおき・きょうじ)さん 松本城管理事務所研究専門員]

松本市役所にほど近い松本城天守の南東、来場者の入り口である黒門の2階は、研究室になっている。松本城管理事務所の研究専門員青木教司さん(69)＝松本市寿小赤＝は、ここで資料や文献に目を通す作業をする。

松本市出身の青木さんはこの仕事に就いて10年目。市は2006年、国内の世界遺産候補を載せた国の「暫定リスト」登録を目指し、提案書を提出した。書類作成に関わって以来、登録に向けた研究の中心を担っている。

市は現在、姫路城(兵庫県姫路市・既に世界遺産登録済み)、彦根城(滋賀県彦根市)、犬山城(愛知県犬山市)と合わせた国宝4城で「日本の近世城郭群」としての登録を目指している。天守を持つ城が築かれたのは16世紀後半から17世紀初めまでだ。青木さんによると、関ヶ原の戦いがあった1600(慶長5)年を境に、天守の様相は大きく変わったという。

1593～94(文禄2～3)年に建造された松本城天守は、国宝4城の中で最も古い。登ってくる敵に石を落とすための「石落とし」や、鉄砲を撃つための小窓「鉄砲狭間(ざま)」など、戦のための仕掛けを備えた「戦国時代の城」だ。一方、1600年以降に建造された他の3城の天守は、白しっくい壁に少ない武装で、徳川幕府の権威を示す存在だ。松本城は「近世城郭の変遷を語る上で重要な位置を占める」と青木さん。

登録に向け一番の課題は、近世城郭群が世界の中で普遍的価値を持ち得ると証明することだ。道のりは易しくないが、「一つ一つハードルを越えていきたい」という。

青木さんは信大教育学部で日本や信州の近現代史を研究。卒業後、小中学校の教員を務めながら歴史の勉強を続け、定年退職後に研究専門員に採用された。松本平の歴史にはかなり詳しいと自負していたが、松本城に関しては「勉強と発見の日々だった」。

中でも感銘を受けたのは、城の保存にかける人々の熱い思いだ。明治時代、一度は競売に出された天守の保存に尽力した市川量造(1844～1908年)、「明治の大修理」を率先して行った小林有也(うなり)(1855～1914年)、そして彼らの活動を支えた多くの市民たち。「できるだけ官に頼らず、民の力でここまで支えてきた城はまれ」と語る。

松本城では現在、市民有志が清掃をしたり、外国人の案内をしたりと、街のシンボルを支える活動を続けている。「明治時代に城を守った『民』の力が今も息づいている。世界遺産に認められれば、市民にとって大きな誇りとなる」。青木さんは真つすぐ前を見て話した。

<松本市 普遍的価値アピールへ研究>

松本城は豊臣秀吉配下の武将、石川数正・康長親子が築城したとされる。廃藩置県で一度は売却されるが市民らの運動により保存。1936(昭和11)年に国宝指定を受けた。

世界遺産登録推進の動きが始まったのは2001年。市民団体の松本古城会などから要望を受け、市が松本商工会議所や市内企業などと「国宝松本城を世界遺産に」推進実行委員会を設立した。

セミナーや城の写真コンテストなどPR活動を続け、06年に国の「暫定リスト」に市と県が松本城単独で応募。継続審査となり、07年により詳細な書類を再提出した。

08年3月、松本市が彦根市、犬山市に呼び掛け、既に登録済みの姫路城を中心とした「日本の近世城郭群」として国宝4城の共同研究をスタート。年3回、学者を交え近世城郭の発展や歴史背景について研究を続けている。3市とも当初は城下町を含めたい意向だったが、09年から天守のみで登録を目指している。

研究会は本年度、近世城郭群の歴史をさらに詳しく調べるため、民間企業と協力し天守が現存する国内12城の研究に着手。海外の城との比較研究や近世城郭に関する学説の収集も始めた。来年3月には成果を報告する予定だ。

松本城・旧開智学校…描けたよ 小中学生が写生大会

2011(平成23)年10月4日(火) 朝刊20ページ 中信2面 6版

発信元: 自社 文字数: 347

記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

松本市の国宝松本城や旧開智学校を題材にして小中学生が絵を描く「松本城・旧開智学校絵画展」の写生大会が2日、城や学校周辺で開かれた。児童約200人が参加し、気持ちのいい秋空の下で作品づくりに熱中した。

市や信濃毎日新聞社などの主催。絵画展では応募作品の中から特選、金賞、銀賞、銅賞、入選を選ぶ。応募した全作品は来年1月19～24日に松本市深志の百貨店「井上」で開く予定の展覧会で飾られる。

松本城では子どもたちがお堀の周囲に集まり、気に入った構図の見える場所に座ると、画材道具を準備して写生を開始。鉛筆でデッサンを仕上げた後、絵の具で色を塗っていった。

同市清水小1年生の逢坂亮人君(6)は、**松本城**を描くのは初めて。「難しいけれど、楽しい」と話し、迫力ある天守閣の姿を画用紙いっぱい描き込んでいた。

南アルプスの魅力「後世へ」 世界遺産 登録推進でフォーラム 200人参加

2011(平成23)年12月6日(火) 朝刊 22ページ 飯伊2面 6版

発信元: 自社 文字数: 451

記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

伊那市、飯田市、大鹿村、富士見町と、山梨、静岡両県の6市町でつくる南アルプス世界自然遺産登録推進協議会は3日、南アの魅力を考えるフォーラムを山梨県韮崎市で開いた。写真。パネル討論では、北アルプスなどに比べて静かな環境や雄大さを特長に挙げ、「後世に残していきたい」とする声が出た。

約200人が参加。南アルプス芦安山岳館(山梨県南アルプス市)の塩沢久仙(ひさのり)館長は、**世界遺産**登録で登山者が増えれば、山域全体でガイドの質の向上や統一が課題になる一と指摘。山梨県山岳連盟の秋山泉会長は、明治期に日本アルプスを世界に紹介した英国人ウォルター・ウェストンが地蔵岳山頂の岩峰「オベリスク」に初めてよじ登った記録を紹介し、「南アは文化、伝説も興味深い」と話した。

登山家の天野和明さん(同県甲州市出身)は、南アを長大トンネルが貫くりニア中央新幹線整備について「自然への影響をどう捉えているか」と質問。客席にいた推進協副会長の中込博文・南アルプス市長が「環境を壊さないようにと(JR東海に)申し入れている」と答えた。

諏訪大社の歴史学ぼう 平林宮司が講演 **世界遺産**めざす諏訪ユネスコ協

2012(平成24)年1月26日(木) 朝刊 22 ページ 諏訪2面 6版

発信元: 自社 文字数: 541

記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

諏訪大社などの**世界遺産**登録を目指す諏訪ユネスコ協会は24日夜、諏訪市公民館(湖岸通り)で大社の平林成元宮司(71)の講演会「神話の里諏訪大社」を開いた。平林宮司は、現存する日本最古の歴史書「古事記」の記述などを参考にしながら大社の歴史を説明、会員約30人が聞いた。

諸説ある大社の成り立ちのうち、「諏訪湖の御神(おみ)渡りがなければ、(上社本宮、前宮、下社秋宮、春宮の)四つの宮はできなかった」とする説を紹介。古代人は氷がせり上がる時のごう音と振動を「神の鳴動」と恐れ、これを鎮めようと「湖の南北に2列できる御神渡りの始点、終点の(計4カ所の)ほとりに御柱を建て、清めの祭りをした」と説明。御柱祭が行われるようになった後、「聖地として神殿が建てられた」と述べた。

同協会の原清会長(75)＝諏訪市湖南＝は「諏訪大社よりも歴史が古い出雲大社(島根県出雲市)が**世界遺産**登録の候補にも挙がらない状況だが、諏訪大社は地域の先人が残した遺産。何十年かかっても登録をやり遂げたい」と話していた。

同協会は、諏訪地方の史跡や自然の**世界遺産**登録を目指して、有志が昨年2月に設立。「地域の遺産を基礎から学ぶ」ため講演会を開いており、昨年8月には縄文時代の国特別史跡「尖石遺跡」(茅野市豊平)について学んだ。

「松本城を**世界遺産**に」実行委

登録への課題学ぶ 専門家「評価、多様な議論を」

2012(平成24)年5月27日(日) 朝刊 27 ページ 広域2面 6版

発信元: 自社 文字数: 341

記事種別: 記事 区分: 県内 ジャンル: 文化・芸能

国宝松本城(松本市)の**世界遺産**登録を目指す「国宝松本城を**世界遺産**に」推進実行委員会は26日、文化遺産保護の専門家、稲葉信子・筑波大大学院教授の講演会「**世界遺産**登録の最新動向について―日本からの登録の可能性」を市内のホテルで開いた。

100人余が聞いた。稲葉教授は**世界遺産**の登録件数は現在計936件で、毎年新たに200件程度の登録があると報告。以前は欧州はキリスト教を中心にした文化遺産が、アフリカ

では自然遺産が多く登録され、「国連教育科学文化機関(ユネスコ)は地域文化の多様性やバランスを尊重し、欠けているものを探している」とした。

松本城の登録可能性については「登録申請がアジア全体にどう貢献するのか、ユネスコを納得させることが重要」とし、城の評価をめぐる多様な議論の必要性を強調した。